
視線の先

梓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

視線の先

【Zマーク】

Z5751B

【作者名】

梓

【あらすじ】

「もしも今、尋が振り向いたなら私は尋に告白する」ほのぼの系をを目指した恋愛小説です。かなり短いです。

私の視線の先には、あなたの後姿。

私の前の席に座っているのは、柏木尋かじわきひるといふ名前の男子である。

彼は私の片思いの相手であり、幼馴染でもある。

私は今日、ある決意を固めてきた。

そして、席に座つて願掛けをした。

今日、もし今尋が振り返つたら私は・・・。

縋るよつた思いで、じつと尋の背中を見つめる。

数分が経過して、私はふうとため息をついた。

まあ、無理だとは思つてたけど・・・。

思わず涙が溢れそうになる。

願掛けなんかしないと告白ができない自分の弱さが悲しくて、悔しかつた。

顔を伏せよつとすると、ふと彼の手が自分の肩に伸びた。

何かを本能的に察知したのか、ちょうど私が見ていた辺りをポリポリと搔いている。

そして次の瞬間

「麻衣？」

尋が振り返った。

端整な彼の顔。

すべてのパートが綺麗で、女の私が嫉妬してしまいました。

唇さえも計算されて作られたかのように美しい。

その唇から紡がれたのは確かに私の名前だった。

「な・・に・・・・？」

思わず声が震えるのを私は堪え切れなかつた。

でも、それに尋が気づいた様子はない。

「お前、何か言つた？」

「言つてない、よ・・・・」

「そつか・・・なんか麻衣に呼ばれたよつたんだけど

「呼んでないよ」

「ま、いいけど」

再び前を向こうとする尋に焦つて、私は声をかけた。

「ひ、尋つーー！」

「ん？」

「きょ、今日の放課後さーちょっと教室で待つてよー！」

授業中だから、と必死に声を抑えようとするけれど、この上擦つた声は抑えられなかつた。

「え？ それつて・・・」

ぱっと色白な彼の頬に紅が灯る。

それに反応して思わず私の頬も赤くなる。

「い、いいから前見てーー！」

それを見られたくなくて、尋の背中を押す。

「お、おう・・・」

きっと林檎のように赤い私の顔。

そんな私の視線の先には耳まで真っ赤な愛しいあなた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5751b/>

視線の先

2010年11月24日16時02分発行